

ファーストラン!
KSKQ FIRST RUN!
—多くの仲間とともに現在を変え未来を創造するために—

NO.105
2018.3



「海のはっぱ」 やまね ひとみ 山根 仁美さん

特集 事業報告

さんかくひろば主催「もちつき大会」開催！！

編集：特定非営利活動法人 箕面市障害者の生活と労働推進協議会

<http://www.suisinkyo.com/>



■ CONTENTS ■

3 事業報告

ヘルパー派遣事業

5 グループホーム事業

6 障害児通所支援事業

7 地域交流センター事業

8 相談支援事業

9 さんかくひろば主催「もちつき大会」開催！！

10 カエルのうた

11 編集後記

12 会員募集

ファーストラン！ 電子版もあります

当法人公式 Web サイト内のページにアクセスしてください。フルカラー PDF 形式でご覧いただけます。ルビなし版も。

<http://www.suisinkyo.com/first-run>

ヘルパー派遣事業 事業報告



ヘルパー派遣事業はおもに在宅向けの支援である「ホームヘルプ」、外出支援の「ガイドヘルプ」を提供している事業です。各種の障害がある方々のもとへ、ヘルパーを派遣しています。

■共通の課題

ホームヘルプ・ガイドヘルプともに共通しているのは、以前より変わらずヘルパー（介助者）の不足が深刻なことです。ホームヘルプでは重度身体障害のある当事者宅での泊まり勤務ヘルパー、ガイドヘルプでは祝休日に活動できるヘルパーが不足しています。また、特に若年層のヘルパーがおらず、ニーズがあっても派遣することがとても難しい状況です。

ヘルパー派遣事業では「人と人のマッチング」がとても大切であるととらえています。単純に「人材が来ればよい」ということではなく、多種多様な個性・特性のある障害当事者一人一人にマッチするヘルパーが獲得できなければ意味がありません。とあるヘルパーがAさんという方とは相性が良くても、Bさんの場合は違う、ということはよくあることです。

しかし、かといって相性の問題だけで片付けるわけにもいきません。当事者の皆さんとベテランヘルパーの力を借り、介助の「伝承」も常々考える必要があります。人材の確保以上に育成がきわめて重要な課題といえます。いまヘルパーが確保できている現場でも、5年、10年と時が経つにつれてヘルパーの引退や世代交代は必ず起こり状況は変わります。安定した日常生活や社会活動を営んでいただくためにも、ノウハウをうまく伝えていけるよう、奮闘しています。また、新人育成の一環として今年度の最後に重度訪問介護従業者養成研修講座という、障害者ヘルパーの入門編となる講座を開催します。来年度の開催も検討中です。

■とりまく環境の変化

当事者皆さんの環境や意識にも変化の兆しがあります。特に365日にわたりヘルパーが必要で、過去より長らく在宅ヘルパーを利用してきた重度身体障害者の方々については、複数の事業所を併用するのが当たり前のようになりつつあります。この大きな原因は、年齢や家庭事情などにより引退するヘルパーが増え世代交代の波が生じる一方、新規ヘルパーの参入が少ないという構造

的な問題にあると思われます。自分に合ったヘルパーを求めて新たな事業所と契約する方や、ヘルパー不足のリスクを小さくするため、いまヘルパーが確保できていても他事業所との契約を検討する、という方もおられます。「障害者のヘルパー」という職業は、いまだ認知が進んでいるとはいいがたい状況ですが、有償・無償ボランティアが当たり前だった時代（ヘルパーが制度化される以前）と比較すると、事業所そのものの数は増えています。ヘルパーも事業所を選び、おのおのが別のところに所属していると考えられますから、当事者の方々が複数の事業所とつながりを持つとすることは自然なこととも言えるかもしれません。事業所探しや契約手続きには多大な労力を伴いますので、ぜひ最寄りの相談支援サービスも利用していただけたらと願っております。なお、若年層の方々（と、そのご家族）の場合は特に付き合いの長い事業所がないということもあり「色々な事業所やサービスを使うことを検討している」と初めから相談いただくケースがあります。色々な制度や手段、事業所を比較検討し利用していくことにたいへん意欲的です。ご自分にマッチする支援を求めて、あるいは一人でも多くの支援者と会うために、当事者の方々が自分の意志のもとで自由に事業所と契約をする、ということが浸透しつつあるようにも感じられます。一概に悲観的なことばかりではないともいえます。

事業所目線では「他事業所の契約」＝「自社の収入が減少する」と考えがちです。そのため事業体としての収入を確保しつつ、特定非営利活動を営む立場で望ましいことを考えるなら「既存の現場を安定させ、より多くの当事者にお会いする」ということになります。新規の派遣業務をより多く受け入れるということです。しかし、残念ながら現在は既存の派遣先で困難な状況が多くみられるため、新規契約についてはほぼストップせざるを得ない状況です。まずはいま利用されている当事者皆さんの支援に尽力し、ヘルパーの確保・教育を行い支援現場の地力をつけていかねばなりません。また、ヘルパーが獲得できても支援の個別性を限界まで追い求めるあまり、特定の熟練ヘルパーしか支援できず、新たなヘルパーにとって習得が難しい現場になっていないかの確認も大切です。ときに当事者皆さんからのご協力も得ながら支援方法の整備・見直しを行ったり、（従来では考えられなかったような発想の支援ですが）各種の情報提供や、他事業所の紹介・介助方法の共有・複数契約の橋渡しを行い、当事者の方々がヘルパーを安心して利用できる環境をすこしでも早く実現できるよう努めています。いずれは各皆さんの生活基盤がより安定し、さらに多くの方々のもとにヘルパーを送り出せればと願ってやみません。

■これから

一人でも多くの方の暮らしが豊かになるよう、ヘルパー派遣にとどまらず「当事者の日常生活を総合的に支援する」という観点をもち今後も活動していきます。当会は昔から「サービス提供者と利用者」という関係になることに抵抗があり、勝ち取ってきたはずの権利や制度にすら、ときに縛られ、葛藤しながら活動してきました。何が最も大切なことかと聞かれれば、昔と変わらず「その人がふつうに、自分らしく生きていけるまちを作ること」と答えるでしょう。しかし、そのための手段やアプローチは時代にうまく対応させないと取り残されるのではと危惧しています。当事者の皆さんをとりまく環境や時代の趨勢をみきわめながら活動していきます。（坊野 一乗）



結 (グループホーム) の 2017 年度 (平成 29 年度) の事業報告

1 年間の事業報告をする前に結の現状についてご説明します。箕面市の桜井に男性 8 名と女性 4 名、百楽荘に男性 4 名の合計 16 名で今年度が始まりました。

女性のグループホームは開所して 2 年目に入り、今年度は入居者の支援内容を適時に確認・変更する事で、より一層の生活の質の向上を図る事を重点に置く事業運営を掲げましたが、入居者の希望で 7 月 1 名、8 月に 1 名が退居する事になり欠員が 2 名となりました。その後新入居者の募集を行いましたが、消防法による設備の関係から募集対象者を支援区分 3 以下にしたせいか応募者はなく、2 度・3 度募集をして 1 月と 2 月に体験宿泊者が 3 名となり少し新入居者の道筋ができた年度末です。

男性の入退居者はなく、比較的落ち着いた今年度でした。ただ、入居者 12 名の内 8 名が 35 才～45 才で体重が増えたり、血圧が高かったりと健康面での支援が多くなり通院に同行する機会が増えました。

職員は専従職員 3 名と世話人 19 名で始まりました。今年度は特に専従職員の研修等の参加による知識や支援方法の取得を掲げました。昨年度より研修に参加する機会は増えたものの直接の支援にどれだけ生かしたか？また、研修等で得た内容を世話人等と共有し現場で直接活かした事は確認する必要があります。

箕面市内のグループホーム事業所の情報交換会も 4 回開催して、他のグループホームの現状や問題点が参考になったり刺激となったりした、有意義な集まりでした。また、今年度は結を始め各事業所に行政から実地指導があり、再度現状の仕事内容及び記録等の方法を再確認できた実地指導でした。

来年度も入居者の支援内容を適時に確認・変更する事で、より一層の生活の質の向上を図る事を重点に置く事業運営を掲げ、専従職員及び世話人も結の運営方針の原点に戻った対応を心がけ入居者により添った運営と支援を目指したいと考えています。(梶原 文雄)

さんかくひろば

地域交流センター

障害児通所支援事業（放課後デイ）事業報告

障害児通所支援事業では、日々のサービス提供に加え、学校や担当医、相談支援事業とのケア会議を通じた外部との連携や、サービスに関する自己評価表の作成、保護者への評価表配布とその集計を行い、運営及びサービスの質の向上に努めました。

サービス中に利用者に提供しているプログラムにおいても、通常のおやつづくりや工作、スポーツ系プログラムに加え、ハロウィンパーティーやクリスマスパーティー、夏のお化けパーティーなど季節に合わせた行事も組み込み、利用者が積極的に参加するなど好評でした。また、ボランティアの方に来ていただいてジャズコンサートや紙芝居、絵画教室、バドミントン教室なども開催しました。これらのイベントはプログラムに来て下さるボランティアの方や参加される地域の方々、そして利用者子どもたちが同じ空間を共有することで当事業の地域交流活動の一助となっています。特にジャズコンサートは毎月一度開催しており、地域の方々も多く来て下さる中、皆でジャズの名曲や誰もが知っている童謡のアレンジ曲を楽しんでいます。



日々のサービス提供中に起こるトラブルや反省点などは、ひやりはっとしてその日の終わりにスタッフ間で報告しあい、週1度の会議でまとめて共有すると同時に今後の対応策を協議して実行しています。目標設定と振り返りのPDCAサイクルを通して、常に移り変わる利用者の状況に合わせたよりよいサービス提供を目指しています。

防災訓練は月に一度、利用曜日やスタッフのシフトによって訓練を受けられないことが無いように曜日を変えて行っています。訓練に際しては、本番の前に利用者にスライドショーを用いた視覚的な説明を行い、よりスムーズな訓練ができるよう工夫をしています。また、個室や和室など地震時にとっさに隠れる机がない場所に防災頭巾を設置し、タオルケット等で対応していた時より安全に頭部を守ることができるようになりました。

防犯についても今年度は取り組みを強化し、箕面警察署より講師を迎えた防犯研修をさんかくひろばにて行い、実際にさすまたを使った訓練や不審者が現れたときの対応などを専従・非常勤職員合わせて9名が参加して学びました。

今年度の放課後デイでは、人員配置基準の厳格化や自己評価結果表の公表義務付けなど制度面で変化の多い年度でした。来年度も4月からの報酬改定を控え、2018年2月現在の時点で報酬区分の基準や基本報酬が大きく変更となる概要が既に提示されています。制度上の変化に対し常にアンテナを張って情報を集めつつ、よりよい運営、サービス提供が行えるよう、日々努力して参ります。

(賦句 達郎)

地域交流センター事業事業報告

地域交流センター事業では、さんかくひろばの認知度を高めるためにイベントや、地域の祭りへの出店を行っています。また、劇団でこじるしーと楽団まぜこぜんの活動も事業の一環として積極的に活動しています。

イベントについて、今年度より新たなイベントとして「わくわく体験イベント」と銘打ち、地域の子ども、親子にたこ焼き作りやバームクーヘン作り、レジンアクセサリ作り等を体験してもらう参加型イベントを5月に行いました。当日はさんかくひろば前の駐車スペースとさんかくひろば内を使って、前述の体験コーナーの他にもスーパーボールすくいや輪投げなどのミニ縁日も出店し、100人程度の子ども、親子連れが来場されて非常に盛況となりました。

また、毎年恒例の餅つきも2月に行い、こちらは連休の日であったこともあるのかやや客足は落ちたものの、餅もほぼ完売し多くの地域の方々に楽しんでもいただくことができました。

地域の祭りへは、今年度は8月にキューズモールで行われたまんどろ火祭りにふくろつりを、12月のライフプラザ冬まつりにたこ焼きとふくろつりを出店し、どちらも完売の盛況振りとなりました。一方で、10月の牧落祭りには出店を予定していたものの、当日台風の接近による悪天候で出店を取りやめることになりました。

劇団でこじるしーの活動について、本年度は10月にメイプルホール小ホールにて第7回公演となる『HEY YO YOKAI によいかい?』を行いました。他団体との合同公演でなく劇団でこじるしー単体での公演は今回が初めてとなり、いつもよりも観客の動員数が少なくなることが懸念されていましたが、予想に反して当日は立ち見が出るほどの盛況で、約120人の来場がありました。

楽団まぜこぜんにおいては、7月のライフプラザ夏祭りに出演してコンサートを行い、また11月にもさんかくひろばにて単独でのコンサートを開催してどちらも好評となりました。11月のコンサートでは放課後等デイサービスの利用者の中からも出演者を募り、3名がメンバーと一緒に参加してコンサートを盛り上げていました。

今年度、地域交流センター事業としては体験型イベントの開催や劇団でこじるしーの初単独公演など、挑戦の多い年となりました。また劇団でこじるしー、楽団まぜこぜんとも新たなメンバーが加入し、活動により広がりを見せてきています。今後も地域交流センター事業は、障害児・者と地域の方々との交流の一助となるような場所づくりを目指し、活動を続けていきます。

(賦句 達郎)



相談支援事業所事業報告

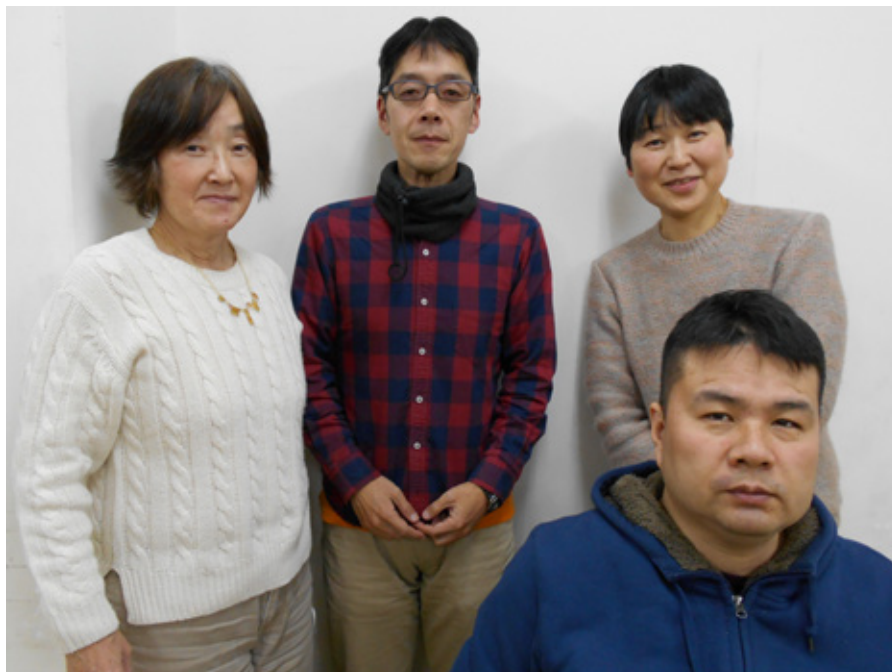
相談支援事業「ライフタイムミント」は、市町村相談支援事業の委託を受け、障害者市民の地域における生活を支援し、自立と社会参加を進めることを目的として、第三事務所において四人の相談支援専門員で業務を行っています。

主な仕事は、箕面市で生活されている障害者の皆さんの生活上で困っていることや、やりたいことについて、お話を聞き一緒に考え、より良い方向に解決を図っていくことです。その他に、月に一度のアートサークルの運営や当事者サークルの活動支援など、余暇の充実に繋がる支援も行っています。

また、大阪府の指定を受け、福祉サービスの利用計画の作成も行っています。平成24年4月より、原則としてすべての障害福祉サービス等を利用する障害者（児）について、サービス等利用計画・障害児支援利用計画の作成が必要となりました。ライフタイムミントでは、現在150名あまりの方の計画相談を担当しています。

計画相談の中心は、サービス等利用計画（ケアプラン）作成ですが、プランを立てるだけで仕事が終了するわけではありません。サービスが適切に利用できているか、一定期間ごとにモニタリング（聞き取り）を行い課題の早期発見、早期解決に努め、必要に応じて計画の見直しを行い、一人一人の利用者さんが地域で安全に快適な生活を送れるよう支援しています。

この一年間でもたくさんのケースを担当し、私たちの力不足から今なお多くの課題が残っています。そんな中でも、就労継続支援B型からA型に変わり、収入が増えたことで仕事にやりがいを感じて頑張っておられる方から元気な報告を受けたり、病状の進行に伴い希望される深夜の介護支援の実現に繋がったこと、ずっと家の中で生活していた方が、当事者サークルの日帰り旅行に参加することができたケースなど、うれしい報告を聞くときに相談員として一番やりがいを感じるかもしれません。



誠に申し訳ありませんが、現在、一人平均40件近い担当を持ち、新規の方のご依頼は原則お断りさせていただいております。しかし、他市からの転入や、様々な理由から必要な支援が受けづらいケースについては、今後もライフタイムミントにてお話をお伺いさせていただきますので、まずはお気軽にお問い合わせください。

(池間 圭子)

さんかくひろば主催「もちつき大会」開催！！



「よいしょー！ よいしょー！」

威勢のいいかけ声が「さんかくひろば」に響き渡ります。2月11日(日)、毎年恒例の「さんかくひろば」主催の「もちつき大会」を盛大に開催しました。

当日はお天気にも比較的恵まれ、「さんかくひろば」関係者のみならず地域の方々も含め会場を埋め尽くすほどの参加者がご来場。もちつき初体験の子どもさんも多く、みなさん笑顔一杯で最近見かける機会が減った「日本の伝統行事:もちつき」を楽しんでいました。中には、ちょっと怖そうにおもちを突いている人もいましたが、それもお愛敬。

突き上がったおもちはずぐに「丸めて味付け作業」にまわし、皆さんで賞味。味付けは「しょうゆ / あんこ / きなこ」の3種類。自分で好きなおもちを選んで口に入れる！突き立てのおもちの味はやはり格別、みなさんおいしそうに頬張っている姿がとても印象的でした。

さらに、当日は「さんかくひろば」卒業生も多数ご来場。久しぶりの再会を抱き合って喜び、近況を語り合う姿を見ると、この「もちつき大会」が「出会いや再会」の場となっていることを改めて実感。

会場では、おもち以外に「たこ焼き」の製造販売もあり！さすが、大阪人、イベントに「たこ焼き」は欠かせない様子！おもちとたこ焼きの両方を味わっている人もたくさんいました。

その他、「輪投げ」スペースでも一投ごとに歓声がこだま！連続で的に当てる「達人」もいて、持ちきれないほどの商品をゲット！拍手喝采！！

障害のあるなしに関わらず地域の人々が一緒に楽しい時間を過ごして交流を深める！まさに「さんかくひろば」の理念を具体化するような「もちつき大会」、今後もぜひ続けていきたいと思っています。来年も期待して下さい！皆さんのご来場をお待ちしております！！

(福永 英司)

カエルのうた

其の 19 ～今が幸せだ



今までに私を見て泣いた人が 2 人いる。2 人とも車イス生活になる前からの知り合いで、わりと親しかった。1 人は病院のベッドに横たわる私を見て、もう 1 人は買い物をしている私を見て突如泣き出した。障害を持った私を見て可哀そうに見えたんだろうか。私は障害を持つ前より今の方がはるかに幸せなのに。もちろん障害を持ったことで不便なことは数え切れないほどある。しかし、そのことを差し引いてもはるかに今がいい。今の生活を少しでも長く続けたいから、昔と違って健康のために何でも食べるようにしている。野菜も意識して食べるようになった。以前は好き嫌いも多く野菜などほとんど食べなかった。倒れる前は「そりゃあ倒れるでしょ」と言われそうな食生活で、朝は食べなかったし夕食はお酒とアテが主食だった。アテと言っても他の人よりもかなり量が少ないと思う。運動もまったくと言っていいほどしなかったし、自分ではわからなかったが、人に聞くとガリガリに痩せていたらしい。

今は少しでも長生きをするために、出来ることは何でもしようと思っている。以前脳出血で倒れた時、医師から血液をサラサラにして血流を良くするために、水を 2 リットル飲まないといけないと言われた。ので水筒にお茶を入れ持ち歩いている。その後出会った他の医師からは「食べ物にも水分が含まれているから、そんなに飲む必要はない」と言われ、今は 1 リットル程度を飲むようにしている。これも体のためだと思っではいるが、医師によって言うことが違うから、どちらが正しいのか分からない。水分の取り過ぎも良くないとテレビで言ってたこともあるし、本当に何が正しいのか分からない。

食事や水分だけではなくに運動や頭の体操も心掛けています。最近は 30 回と決めて屈伸運動もするようにしている。障害を持っていない人にしてみれば、軽い準備運動程度だが私にとってはそこそこきつい。

それにパソコンで麻雀ゲームもしている。遊びではあるがなかなか面白く、頭の体操にはぴったりだ。昔も麻雀ゲームはあったけれども、物凄く単純で面白くなかった。最近のゲームの進化には目を見張るものがある。面白いからちょっとでも時間があればやってしまう。リハビリというより完全に趣味の領域だが、結果的にリハビリになっているという感じだ。続けるには楽しく出来るのが一番良いような気がする。やっぱりしんどいリハビリは続かないかも……。

(武藤 芳和)

編集後記 ～こんなメンバーであんじょうやりました～

・すっかり春めいてきましたが、今年の冬は大寒波でしたね。寒すぎるあまり洗濯物を大量室内干ししていたら、ハンガーをかけていたカーテンレールがグラグラしてきました。よく確認してみると、グラグラしていたのはカーテンレールではなくレールの根本の梁でした。梁がグラグラしていました。大家さんに怒られそうです。(職員 T. F)

・2月22日は猫の日だったって、ご存知でしたか? 「ニャン(2) ニャン(2) ニャン(2)」という猫の鳴き声の語呂合わせだそうです。お疲れモードの私は、カフェの猫3匹に癒されてきました。今さらですけど、猫めっちゃくちゃかわいいですね。猫アレルギーなので今まであまり近づかなかったのですが、遅ればせながら猫ブームなの納得しました!(職員 O)

・極寒だった今年の冬、ようやく日中はちょっと暖かくなって来ました。一番嬉しいのは、水道管凍結の心配が減ること。毎回、蛇口をひねる時のドキドキ感は無量大。洗濯ができずコインランドリーに行っても長蛇の列で休みが1日潰れたこともあり。苦労が耐えませんでした。(職員 F)

・好きな漫画があって最近読みなおしたいと思うけど、押入れの奥にしまい込んでなかなか読めていない。好きなものなら、いつでも読めるところに置いておけば良いのにバカだなあと思う。何も考えずにしまったせいだ。でも、好きなものをあえて遠ざけておくのも悪くないかと自分を納得させている今日この頃。(たぬき)

・寒さがようやく落ち着いたと思ったら次は花粉で目がシバシバ鼻がムズムズ。目玉や鼻が着脱式になっていたら丸洗いできてスッキリするのにな～と毎年思っています。

(びーどろ)



当法人の応援をお願いします！【会員募集】

当法人「箕面市障害者の生活と労働推進協議会」(略して推進協)は「障害者市民の権利および自立生活の促進」を理念に掲げ、活動しています。**当法人を応援してくださる会員を募集しています！**

現在、当法人では主に下記の活動を行っています。



ヘルパー派遣事業

地域で自立生活を営む障害のある方々に向けたヘルパー派遣を行っています。「居宅介護」や「重度訪問介護」などの在宅支援、障害の特性にあわせた「同行援護」「移動支援」などのガイド支援を行っています。



グループホーム事業

障害者市民の自立生活の一つとしてグループホームを市内で運営し、地域生活を支援しています。入居者の自主性を大切にし、その人の個性をよく見てできることは自分でしてもらい、できないことは少しずつできるように世話人が支援をしています。



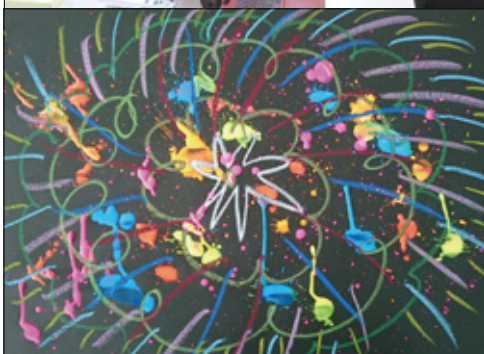
地域交流センター事業

放課後、長期休暇中の活動保障として障害がある子どもや地域周辺の子どもたち、および市民が交流する場「さんかくひろば」を運営しています。また、保護者等に対する相談も行っています。



相談支援事業

障害者市民の自立生活への援助・アドバイス・情報提供を目的として、きめ細かい相談業務を行います。また、より多くの市民と共に将来の施策のあり方について検討を行います。



その他の幅広い活動

当法人独自の事業として移動困難者の支援を行う送迎サービス、当広報誌『ファーストラン!』の刊行、ヘルパー養成の研修やアートサークルの運営なども行っています。

今後も障害のある方々にとって暮らしやすい社会づくりにむけた活動を継続していきます。より一層のご支援・ご協力をいただきますようお願い申し上げます。つきましては、**一人でも多くの皆さまに、当法人理念および活動方針の賛同者であり応援者でもある「会員」になっていただき、当法人の活動を応援していただければと願っています。**



■ご入会について■

入会希望の方はご一報ください。入会申込書を送付いたします。会員の種別は下記の3種類となっています。

団体会員	年会費	： 1 口	10,000 円
個人正会員	年会費	： 1 口	3,000 円
個人賛助会員	年会費	： 1 口	1,000 円

※団体会員・個人正会員は年に1回開催される総会に参加でき、議決権があります。個人賛助会員に議決権はありません。

また、団体会員と個人正会員の議決権は1つで、口数には比例しません。

(口数が増えても議決権は増えません)。

当法人公式サイトからお申し込みいただけます！下記のページにアクセスしていただき、画面の案内にそって必要事項を入力のうえ、お申し込みください。

<http://www.suisinkyō.com/members>

■お問い合わせ先■

072 - 723 - 3342 (会員担当：木下^{きのした})

みなさん、推進協の応援団、会員になってください！お願いします！

当法人について

当法人は箕面市内で様々な活動を行っています。

ご依頼・ご相談は電話・FAX・Email・公式サイトよりお問い合わせのうえ、各事務所へお越しください。



編集／特定非営利活動法人 箕面市障害者の生活と労働推進協議会

〒562-0001 大阪府箕面市箕面 4 丁目 8 番 30 号 電話：072-723-3342 FAX：072-723-6506

Email：JDW07270@nifty.com 郵便振替：00990-4-116066 公式ウェブサイト：<http://www.suisinkyo.com>

発行人／関西障害者定期刊行物協会 大阪市天王寺区真田山 2-2 東興ビル 4 階